

令和5（2023）年度 事業報告書

（令和5（2023）年4月19日～令和6（2024）年2月29日）



I. 基本方針

1. 教育の普及と機会均等の実現: 奨学金を通じて、教育の普及を促進し、社会的・経済的な制約による教育機会の格差解消を目指す。
2. 人材育成の支援: 奨学金を受けた学生が、優れた教育環境で学び、成長することを支援する。将来的に社会で活躍し、リーダーシップを発揮する人材を育成することを目指す。
3. 社会への貢献: 奨学金の受給者が、学術の成果や知識を社会に還元し、社会的な問題の解決や発展に貢献することを期待し、また、教育によって地域や国際社会に貢献する人材の育成を支援する。
4. 公益法人に求められるガバナンス体制を構築、社会の信頼を得た永続的な活動を行う。

II. 事業活動

1. 奨学金事業

令和5（2023）年度は就学意欲がありながらも経済的理由により就学が困難な大学生及び大学院生が安心して学び続けるために奨学金の給付を行い、将来の目標とする仕事や夢が明確に描ける次世代を担う有望な人材の育成をはかり社会の発展に寄与することを目的として次の事業を行った。

（1）音楽奨学金事業

（1-1）募集概要

① 募集期間

令和5（2023）年4月1日から令和5（2023）年6月10日まで

② 受給期間

令和5（2023）年4月1日から令和6（2024）年3月31日まで

③ 応募資格

（ア）学資の援助をすることが必要であると認められる者

（イ）将来社会的に有益な活動を目指す者

④ 助成額

27名に対し月額3万円の6ヶ月分（18万円）を年2回

（2）応募結果

① 応募総数：31名のうち27名を奨学生として決定

※1名36万円、計972万円を給付

② 奨学生採用実績校一覧（50音順）

大学名	採用数(名)	大学名	採用数(名)
愛知県立芸術大学	1	東京音楽大学	2
エリザベト音楽大学	1	東京藝術大学	3
沖縄県立芸術大学	1	桐朋学園大学	1
鹿児島国際大学	1	徳島文理大学	2
岐阜聖徳学園大学	1	名古屋音楽大学	1
京都市立芸術大学	1	広島文化学園大学	1
金城学院大学	1	フェリス女学院大学	1
神戸女学院大学	1	平成音楽大学	2
国立音楽大学	1	宮城学院女子大学	1
洗足学園音楽大学	1	武蔵野音楽大学	2
相愛大学	1	計27名	

（3）選考スケジュール

下記の日時にて助成先の選考及び決議を行った。

① 選考委員会

開催日時：令和5（2023）年7月4日 15時より開催

開催場所：東京都港区南麻布四丁目5番48号 フォーサイト南麻布2階

※中西選考委員、藤田選考委員はリモート会議システムにより参加

② 理事会

開催日時：令和5（2023）年7月12日（決議省略にて実施）

提案日：令和5（2023）年7月8日

（4）活動報告

① 中間報告

ア. 奨学生Aさん

大学は義務教育ではないため、学びたい人が学ぶことができる教育機関であります。自分の生活の中でなくてはならない音楽という存在を、多角的観点から学ぶことができている環境の素晴らしさを実感しております。しかし、学ぶにしろ生活していくにしろ、何事もお金がかかるというのが現実であり、お金がなけれ

ば何かを諦めなければならない事実もあります。実際に、メディアでも、“お金がないことから進学を諦めざるを得ない”、“進学したいが片親家庭であるため、負担をかけたくない、早く就職しようと考えている”といったニュースを何度も耳にしたことがあります。私がこのように、安心して勉学に打ち込める環境があるということは、決して当たり前のことではなく、貴財団のような素敵な取り組みがあるおかげで、成り立っているのだと実感しております。まだまだ未熟者ではありますが、今後も様々な勉強を通して人々と関わりながら成長し、“教員”という社会に貢献する形で恩返しができればと考えております。改めまして、安心して勉学に臨める環境を作ってくださったこと、非常に感謝しております。今後ともどうぞ、よろしくお願ひいたします。

イ. 奨学生Bさん

今年度は昨年度より授業数が少ない分、より多くの時間を作編曲に充てることができます。自分のやりたいことや作りたい音楽、出したい音などがまだまだ知識や経験が足らず、できないことばかりで悔しい思いをすることもありますが、日々試行錯誤しながら過ごしています。悩んだり立ち止まったりするときもありますが、その度に自分が音楽をやるきっかけになった曲を聴き、モチベーションを保っています。これから挫折することもあるかもしれません、その度に原点に立ち返り、頑張ろうと思います。奨学金をいただき、音楽大学に通うことができているということを忘れずに残りの学校生活で自分にできることを一杯やろうと思います。

ウ. 奨学生Cさん

奨学金の給付により、この夏はドイツのマスタークラスに参加することができ、新たな研鑽を積みました。マスタークラス中は教授によるレッスンのほか、さまざまなレクチャーが行われ、演奏する際の身体の使い方を深く学ぶことができました。教授陣による演奏会やオーケストラコンサートは素晴らしいもので、大変良い刺激を受け、自分自身の音楽観が大きく変わりました。この経験を通して、大学卒業後の進路計画を以前より具体的に立てることができ、ヨーロッパの生活からは文化的な学びを得られたことも大きな収穫になりました。

エ. 奨学生Dさん

この度は、奨学生に採用していただきありがとうございます。奨学金のおかげで、心と時間に余裕が生まれ、学業やピアノの練習に専念することができております。特に奨学生として採用されるまで、小学校・中学校教育実習の計二か月間アルバイトすることができず収入がなくなるため、学びながら生活できるか強く

不安を感じていました。しかし奨学生として採用していただいたおかげで、実習に専念することができ、更に大きな学びを得ることができました。これから来年度の教員採用試験や大学院入試、ピアノコンクールそれぞれの目標を実現するため、この恵まれた機会をつくっていただいたことに感謝しながら、より一層精進していきたいと思います。

オ. 奨学生Eさん

この度は奨学生として採用して頂き、誠にありがとうございます。家庭の経済的な理由で県外の音楽大学への進学は初めから考えることすら許されず、地元の大学へと進学しましたが、自分に与えられた環境の中で何事にも誠実に取り組むことを目標に、これまで精進してまいりました。そんな中、私の学内での努力や成果を認めていただき、大学の教授の方から藤澤記念財団様の奨学生として私を推薦してくださいました。今振り返るといつも心のどこかには、東京など音楽を学ぶのにより良い環境が整う場所への憧れがあったように思いますが、今回奨学生としてご支援いただいたことで、経済的な心配をせず安心して県外へ何度も足を運ぶことができ、憧れていたホールで演奏をしたり、新しい出会いの中で刺激をもらったりと、多くの貴重な経験をさせて頂きました。それだけでなく論文の執筆や練習のための時間もしっかりと確保することができて、奨学生として学ばせていただけることのありがたさを身をもって実感し、感謝の念に堪えません。ご支援をいただけることに改めて感謝申し上げるとともに、奨学生としての名に恥じぬよう今年度後期も引き続き精進してまいります。

② 終了報告

ア. 奨学生 Aさん

1年間、大変お世話になりました。貴財団の奨学金を頂く事が出来た事は、自身の中で非常に大きな自信となり、また大きな心の支えとなりました。昨年の始めに父が病により働けなくなってしまった際には、「これからどうしよう」という不安が大きく勉学に集中出来ない時期もあったのですが、貴財団のご支援を頂く中で「この時間を有意義に過ごさなくては」という強い気持ちが湧くようになります。それにより1年間でこれまで以上に濃厚な学びを行う事が出来たように思います。そして、これまでただ漠然としか考えていなかった学生生活を送れる事への感謝を再認識し、その感謝を還元出来るようこれまで以上に高いモチベーションを持って研究・ピアノの研鑽に取り組む事が出来たと感じております。又、貴財団の御支援は金銭の支えにより自身の生活にも大きなゆとりを与えてくださいました。アルバイトの時間を減らして大学にいる時間を増やす事が出来たり、演奏会に行く機会も多くもつ事ができ、大変嬉しかったです。それにより、無理

をせず毎日を健康的に過ごす事が出来たと感じております。これらの経験を忘れる事なく、この1年間貴財団に御支援頂いた事を感謝申し上げますと共に今後の勉学や業務に熱心にも取り組んでまいります。誠にありがとうございました。

イ. 奨学生 Bさん

奨学金をいただいたことで、仕事を増やすずに済みました。そして、ピアノの実技と授業科目の勉強と教職の両立、更に、音楽教育の研究をすることができ、成績も維持することができました。

大好きな大学を、経済上、通学継続を諦めるしかないのか、と思っていた一昨年でしたが、こうして最後まで通うことができ、卒業までできたことが本当に感謝です。貴会の奨学金をいただけた為に、叶った夢あります。

まだまだ未熟で、これから多くの挫折もあると思いますが、貴財団の奨学金をいただいた誇りと感謝を胸に秘めて、頑張って参ります。

ありがとうございました。

ウ. 奨学生 Cさん

藤澤記念財団様、私を面接して下さった担当者様、事務局の皆様、御年度一年間大変お世話になりありがとうございました。私にはたくさんのコンサートに出演する有名なピアニストになりたいという大きな夢があります。その夢は簡単なものではないので、学校以外にもいろいろな学びやコンクールの参加が必要なのですが、一回生という大学生活、スタートの時に応援して頂けて思いっきり学び成長することが出来ました。財団の皆様に「あ、我々が応援した子の名前だ」と今後目にして思っていただける活躍が出来るように、二回生以降も精一杯努力することを約束いたします。一年間を終え感謝の気持ちで一杯です。

本当にありがとうございました。

エ. 奨学生 Dさん

今年度1年間、奨学金を給付していただき本当にありがとうございました。
昨年度のようにバイトに月80時間注ぎ込むことなく、半分の月40時間ほどで済み、そのおかげで練習時間も勉強時間も多く取れました。身体的疲労も精神的疲労もぐんと減りました。今年度は悩みが尽きない1年でたくさん歌うことについて考えてたくさん苦しんだ1年でした。しかし、この春休みにお声がけいただいて、地元で保育園と老人ホームで演奏する機会がありました。これは私にとって初めて、1人で歌を歌ってお金を貰うというお仕事の体験でした。たくさん小さい園児たちに7曲、20人ほどのおじいさんおばあさんたちに7曲、それぞれ考えて選曲して小道具も作って、とても小さいですが2公演終えることができ

ました。普段緊張で固くなってしまう私ですが、今回は良い緊張感を持って自由に表現することができました、これは初めての感覚でとても良い経験になりました。今回だけでなくこれから実技試験などでもそのような演奏ができたらと、今回がそれに繋がる大きなヒントになるといいなと思っています。この公演の後、他の保育園2か所からも「話を聞いたぜひうちでもやっていただきたい」とお声がけいただきました。来年の夏休みには3か所の保育園とまた老人ホームで小さな演奏会を開くことができる予定です。もしも藤澤記念財団様から奨学金をいただいていなければ、今年も春休みは一生懸命バイトをして地元に帰る暇も余裕もなかったと思います。このような機会もいただけていなかつたことと思ひます。ほんとうに感謝の気持ちでいっぱいです。

オ. 奨学生 Eさん

一年間貴財団の奨学生として採用していただけたこと、誠に感謝申し上げます。私は以前から教員になるという夢を抱いており、叶えるために日々努力してきました。その過程で、もう少し教育に対して勉強してみたい、今後の日本の教育をより良いものにしていきたいという願望が芽生え、教職大学院への進学を視野に入れるようになりました。このように夢を持つこと、自分で選択できることは決して当たり前のことではないと感じております。現代社会は大きく発展していますが、叶えたい夢があっても経済的事情で諦めざるを得なかつたり、そもそも進学すら選択肢の中に含まれていなかつたりと、悩みを抱えた児童生徒はまだまだ沢山います。自分の未来は自分で切り拓くしかありませんが、一人では必ず限界があるのもまた事実です。だからこそ貴財団のような、学生に支援を行う取り組みがあることで多くの児童生徒が救われるのではないかと、私も実際に奨学生として生活してきた上で強く実感いたしました。私自身、教員を目指す立場ではありますが、やがて教育現場から離れた際、このように学生を支援する取り組みを行ってみたいという夢も密かに抱くようになりました。多くの児童生徒が、経済的事情にとらわれず、夢を抱き、叶えるために努力できる環境がこれからも整っていきますよう、貴財団の益々のご発展をお祈り申し上げます。

III.法人運営

1.理事会・評議員会の開催

(1) 理事会

① 開催日：令和5（2023）年7月12日（決議省略）

提案日：令和5（2023）年7月8日

第一号議事 音楽奨学金の応募選考結果に基づく給付承認の件

報告事項 職務執行状況の報告

② 開催日：令和6（2024）年1月31日（決議省略）

提案日：令和6（2024）年1月24日

第一号議事 令和6（2024）年度事業計画の件

第二号議事 令和6（2024）年度収支予算の件

報告事項 職務執行状況の報告